

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：32501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00349

研究課題名(和文) 計量文献学手法を応用した源氏物語写本の本文調査

研究課題名(英文) Orthographic Data Analysis for the Textual Study of Genji Manuscripts

研究代表者

斉藤 鉄也 (Saito, Tetsuya)

淑徳大学・経営学部・教授

研究者番号：70317303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、古典籍の本文に対して、計量文献学の方法を用い、これまで文学や文献学分野で提案されてきた古典籍の「通説」を検証する「仮説検証」や、文学や文献学分野へ本調査結果を用いた「仮説提案」を行うことである。本研究では、(1)出版や公開されている写本(影印本)の持つ変体仮名の本文をデータとして入力し、(2)分析方法として計量文献学の複数手法を適用し、(3)年代推定と著者(書写者)推定に関する知見の蓄積を行うことを目指している。調査対象として、資料が多く残る藤原定家関連の書写資料と、源氏物語の写本を中心とし、年代や書写者の推定を試みる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果によって、これまで文学や文献学、書誌学の研究者によって指摘されてきた古典籍の書写者や書写年代に関する通説を、古典籍の本文の用字に着目し、データサイエンスの分析方法とその結果を根拠として、その蓋然性を高めたと言える。加えて、同時代の古典籍を大量に比較することで、新たな古典籍間の関係を提案した。最初に、古典籍の本文をデータ分析するための方法を提案し、書写者や書写年代が明らかな古典籍を対象に、提案する方法を用いた分析結果が通説と矛盾しないことを明らかにした。その事例として、藤原定家や三条西実隆が関わった『源氏物語』写本の書写者や書写年代の推定を行なった。

研究成果の概要(英文)：This research aims to verify - using the methods of statistical analysis - a number of pre-existing theories originally formulated on the basis of traditional philological expertise. It aims moreover to propose several new hypotheses based on the findings of this same investigation. Accordingly, this study has the following three primary objectives: (1) the incorporation of novel kana-character variant-containing textual data, as found in either published or online sources; (2) the application of various methods of statistical analysis in its own analytical approaches; and (3) the attainment of various insights into the dating and copyist-identification of individual manuscripts. The particular focus of this study is on manuscript materials associated with Fujiwara no Teika, specifically their datings and copyist attributions, in which task it is greatly aided by the abundance of available resources - above all by the availability of many discrete manuscripts of the Tale of Genji.

研究分野：計量文献学

キーワード：源氏物語写本 藤原定家 仮名字母 本文表記 頻度分析 教師なし分類 Ngram

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでに古典籍を研究対象として扱う文学や文献学の研究成果が蓄積され、分野の研究内容は精緻化されてきた。その結果として、研究の難易度が上がり、新しい視点や手法といった異なるアプローチを用いた研究の必要性が高まっている。この「異なるアプローチ」を用いる研究分野として、情報学や統計学の方法により、文章の特徴を発見し、それらの分析を目的とした計量文献学がある。古典籍に対しても計量文献学からの貢献は可能と考えられるが、次の様な課題がある。

(1)「調査対象となる古典籍の本文が読める情報学や統計学の研究者が少ないこと」、「調査目的に合致した方法の検討が必要であるが、本文の特徴を表す『変数』が不明であること」、「調査対象が膨大であり、その選択のためには文学や文献学の知見が必要なこと」があり、研究が進展していない。

(2)これらの問題が解消され、本文データが収集できたとしても、「その処理方法が明らかでないこと」、「結果的に研究事例も少なく、研究成果が不明であること」から、文学や文献学に貢献する研究成果は少なく、未開拓の研究領域が残されている。現状では古典籍に対する計量文献学の方法を用いた基礎的な知見の積み重ねが必要とされている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、文学や文献学で蓄積された知見を「仮説」と捉え、計量文献学の方法で得られた調査結果と比較し、その仮説を検証する「仮説検証」と、調査対象とした古典籍の本文データの処理結果が示唆する仮説を提案する「仮説提案」をすることである。その手段として、写本の本文を変体仮名のデータとして蓄積し、それらに対して計量文献学の手法を適用し分析する。本研究では、文学や文献学と情報学や統計学といった分野の研究を結びつけ、文献学分野で指摘されてきた「問題」を、情報学と統計学の方法を使って「解決」することを意図した学際型研究を試みる。

古典籍の出版やインターネット上での画像公開が進み、その利用は容易になってきていることから、これらを対象とした研究機会が出現してきている。この機会を活かし、これまでの研究において、出版またはインターネット上で公開されている古典籍の写本を対象に、本文の特徴となる変数として変体仮名の本文データに着目し、それに対する数値化と統計分析方法を適用した結果、古典籍の本文データから年代推定や著者(書写者)推定、系統分類ができる可能性を指摘し、「仮説検証」や「仮説提案」を行なってきた。今後の調査により、本文データはさらに増加するため、これまでに得られた知見の検証に加えて、新たな知見の発見が可能になることが期待できる。文学や文献学で重視または注目されている写本であっても、本方法を適用していない写本は多く存在し「未開拓の調査対象」は非常に多い。そのため、写本を収集し調査することで、今後多くの知見を得ることが期待できる。

3. 研究の方法

本研究は主として「年代推定の研究」「著者(書写者)推定の研究」「本文分類の研究」からなる。その方法として、公開されている古典籍の影印本や画像、複写を入手して、それらの本行本文の本文データを作成し、情報学と統計学の方法を用いた本文分類を行う。「古典籍の本文を直接的な調査対象として選択していること」、「統一的な方針に基づいて収集し入力した本文データを蓄積すること」、「古典籍の本文の特徴となる変数を探索すること」、「本文データを数値化し、統計学を持つ複数の分類手法を用いて研究すること」が、これまでの文学や文献学の本文研究とも情報工学の技術開発や応用研究とも異なっている。

(1)「年代推定の研究」

藤原定家関連の書写資料に関する研究の初期段階の研究成果は、既に学会発表及び論文発表をしている。藤原定家の書写資料のデータ、及び、藤原定家筆の資料を忠実に書写(臨模)したとされる写本のデータを、本方法を用いて処理し、年代推定に関する「仮説提案」を行う。

(2)「著者(書写者)推定の研究」

上記の藤原定家の他に、定家の書写活動に参加した人物による写本も多く残る。この研究では、これまで対象とされてこなかった、無名の人物による書写資料間の関係を明らかにする。冷泉家時雨亭叢書や他の所蔵機関から出版されている写本と上記の藤原定家の臨模本のうち他筆によるとされる写本を対象に比較する。加えて、数多く残る『源氏物語』写本まで視野に入れ、その書写者の推定とその結果に基づく「仮説検証」を試みる。

(3)「本文分類の研究」

出版や画像公開、各地の図書館に貴重書として所蔵されている『源氏物語』写本の紙焼きを対象とし、同音の仮名字母の出現傾向や、数文字単位の文字列の出現傾向を、統計的な分類方法を適用して分類する。

4. 研究成果

本研究の成果は、仮名字母の出現傾向と表記の類似性の点から、主として『源氏物語』写本とその伝称筆者が書写した資料の本文に関する「仮説検証」と「仮説提案」を行なったことである。研究では、最初に、書誌情報が明らかな古典籍を用いて、本方法によって得られた結果が、文学や文献学、書誌学の知見と矛盾しないことを明らかにした。同時に、統計的方法によって、既存の仮説の蓋然性を高められることを示した。次に、この結果に基づいて、古典籍を定量的に分類する尺度を設計し、それに基づいて、書誌情報が不明なことが多い写本を分類し、これまで指摘されていない写本間関係の仮説を提案した。

(1) 「年代推定の研究」

初期段階の研究成果として、藤原定家が書写した古典籍の本文に出現する仮名字母の出現傾向に対して統計処理を行い、分類結果が文学や文献学、書誌学の書写者に関する知見と矛盾しないことを明らかにした。その結果を踏まえて、藤原定家が書写した巻を含む定家監督書写四半本『源氏物語』の書写年代を推定した。加えて、(推定)書写年代に特徴的に出現する仮名字母を指摘した。本調査結果は、「定家監督書写四半本『源氏物語』の年代推定 - 仮名字母の出現傾向を用いて - 」中古文学第 112 号(2023/11)に報告した。

(2) 「著者(書写者)推定の研究」

写本の本文に出現する仮名字母の出現傾向に対して統計処理を行い、文学や文献学、書誌学の知見と矛盾しないことを明らかにしている。この調査では、仮名文字数が 5000 文字以上必要であることを示し、同筆の可能性のある写本間関係を考察する尺度を提案した。調査結果は、「仮名字母の出現傾向を用いた尾州家河内本源氏物語関連写本の調査」情報処理学会論文誌 61 巻 2 号(2020/2)に報告した。加えて、調査対象資料を増やし尺度を更新した結果を、「仮名字母の出現傾向を用いた池田本源氏物語の調査」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 2020(2020/12)に報告した。

これらの調査と並行して、仮名字母の出現傾向に基づく書写者同定の結果を用いて、室町時代後期の源氏物語写本を取り上げ、同一の書写者による可能性がある写本の存在を指摘し、伝称筆者との確認と写本間関係に関する仮説提案や考察を行なった。調査結果は、「仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(1)及び(2)」実践女子大学文芸資料研究所年報 39 号及び 40 号(2020/3,2021/3)に報告した。

また EAJ2021 にて “Getting Closer to Scribes and Dates of Manuscripts via their hentaigana: Method and Case Study” とのタイトルで国際学会発表した。

(3) 「本文分類の研究」

本文表記に基づいた写本を分類する尺度を設計し、表記が類似する写本間関係にある写本は、共通の親本を持つ可能性を指摘した。調査では、各帖ごとの本文の類似の程度を一覧表として可視化し、54 帖全体を統一した方法で俯瞰した写本間関係を指摘した。初期段階の研究成果として、「Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(1)及び(2)、(3)」実践女子大学文芸資料研究所年報 39 号及び 40 号、41 号(2020/3,2021/3,2022/3)に報告した。本文表記に基づいた写本を分類する尺度の設計と、それに基づく分類結果は、「本文表記の Ngram を用いた室町時代書写の源氏物語写本の分類」情報処理学会論文誌 63 巻 2 号(2020/2)に報告した。

また EAJ2023 にて “Orthographic data analysis and the study of Genji manuscripts: texts from the hand of Sanjonishi Sanetaka” とのタイトルで国際学会発表した。

(4) 「仮名字母を用いた年代推定の研究」

上記の調査対象と方法を用いた派生的な研究として、古典籍の(推定)書写年代に特徴的に出現する仮名字母を調査した。『源氏物語』写本を対象に調査した結果は、「仮名字母の出現傾向が類似する鎌倉時代書写の源氏物語写本の探索」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 2021(2021/12)と「仮名字母の出現傾向を用いた『源氏物語』写本の調査」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 2022(2022/12)に報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 7
2. 論文標題 東大本『源氏物語』の用字 - 仮名字母と本文表記の比較を通して -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 淑徳大学教育学部・経営学部研究年報	6. 最初と最後の頁 151,162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 43
2. 論文標題 実践女子大学山岸文庫蔵耕雲本『源氏物語』の用字 - 仮名字母と表記の比較を通して -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 201,219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/0002000162	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 2023
2. 論文標題 正徹本『源氏物語』の用字の調査 - 仮名字母と本文表記を中心として -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん2023」	6. 最初と最後の頁 259,266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 112
2. 論文標題 定家監督書写四半本『源氏物語』の年代推定 - 仮名字母の出現傾向を用いて -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中古文学	6. 最初と最後の頁 63,77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 6
2. 論文標題 表記本文から見た定家本と河内本 『源氏物語』本文の分類	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 淑徳大学教育学部・経営学部研究年報	6. 最初と最後の頁 141,172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 42
2. 論文標題 後柏原院本 『源氏物語』の仮名字母と本文表記 - 室町時代写本との比較を通して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 65,93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002446	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 1
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向を用いた 『源氏物語』写本の調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん2022」	6. 最初と最後の頁 263,270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 -
2. 論文標題 Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本 『源氏物語』の位置付けの調査 - 書陵部蔵三條西家本、保坂本、大正大学本、日大本、池田本、大島本を中心とした写本との比較を通して -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費報告書課題番号19K13063	6. 最初と最後の頁 49,90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 -
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査 - 書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費報告書課題番号19K13063	6. 最初と最後の頁 33,48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 5
2. 論文標題 仮名字母と表記から見た飯島本源氏物語の調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 淑徳大学教育学部・経営学部研究年報	6. 最初と最後の頁 147,163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 41
2. 論文標題 Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(3)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 77,128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002292	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤 鉄也	4. 巻 63
2. 論文標題 本文表記のNgramを用いた室町時代書写の源氏物語写本の分類	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 347,354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20729/00216241	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 2021
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向が類似する鎌倉時代書写の源氏物語写本の探索	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん2021」	6. 最初と最後の頁 162,169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 4
2. 論文標題 表記の Ngram を用いた 蓬左文庫蔵三条西家本源氏物語の親本の推定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 淑徳大学教育学部・経営学部研究年報	6. 最初と最後の頁 143,158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 40
2. 論文標題 Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 199,224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002237	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 40
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 181,198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002236	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 2020
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向を用いた池田本源氏物語の調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん2020」	6. 最初と最後の頁 121,128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 3
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向を用いた紅梅文庫旧蔵本源氏物語の調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 淑徳大学教育学部・経営学部研究年報	6. 最初と最後の頁 263,280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 39
2. 論文標題 Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ(1) - 書陵部蔵三條西家本、保坂本、大正大学本、日大本、池田本、大島本との比較を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 91,119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002117	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 39
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ(1) - 書陵部蔵三條西家本、保坂本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所年報	6. 最初と最後の頁 75,89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002116	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 61
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向を用いた尾州家河内本源氏物語関連写本の調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 144, 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 巻 2019
2. 論文標題 仮名字母の出現傾向を用いた大島本源氏物語の調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん2019」	6. 最初と最後の頁 157, 164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 正徹本『源氏物語』の用字の調査 - 仮名字母と本文表記を中心として -
3. 学会等名 じんもんこん2023(人文科学とコンピュータシンポジウム)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tetsuya Saito
2. 発表標題 Orthographic data analysis and the study of Genji manuscripts: texts from the hand of Sanjonishi Sanetaka
3. 学会等名 17th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 仮名字母の出現傾向を用いた『源氏物語』写本の調査
3. 学会等名 じんもんこん2022(人文科学とコンピュータシンポジウム)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 仮名字母を用いた『源氏物語』写本の調査
3. 学会等名 第十六回ワルシャワ大学 日本祭ワルシャワ大学における東洋学の成立 90 周年記念 国際会議:日本伝統文化と文学 形、イメージ、言語(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tetsuya Saito
2. 発表標題 Getting Closer to Scribes and Dates of Manuscripts via their hentaigana: Method and Case Study
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 仮名字母の出現傾向が類似する鎌倉時代書写の源氏物語写本の探索
3. 学会等名 じんもんこん2021(人文科学とコンピュータシンポジウム)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 仮名字母の出現傾向を用いた池田本源氏物語の調査
3. 学会等名 じんもんこん2020(人文科学とコンピュータシンポジウム)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤鉄也
2. 発表標題 仮名字母の出現傾向を用いた大島本源氏物語の調査
3. 学会等名 じんもんこん2019(人文科学とコンピュータシンポジウム)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 齊藤鉄也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 36
3. 書名 日本古典文学を世界にひらく「変体仮名を用いて写本の書写者と書写年代に迫る」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------